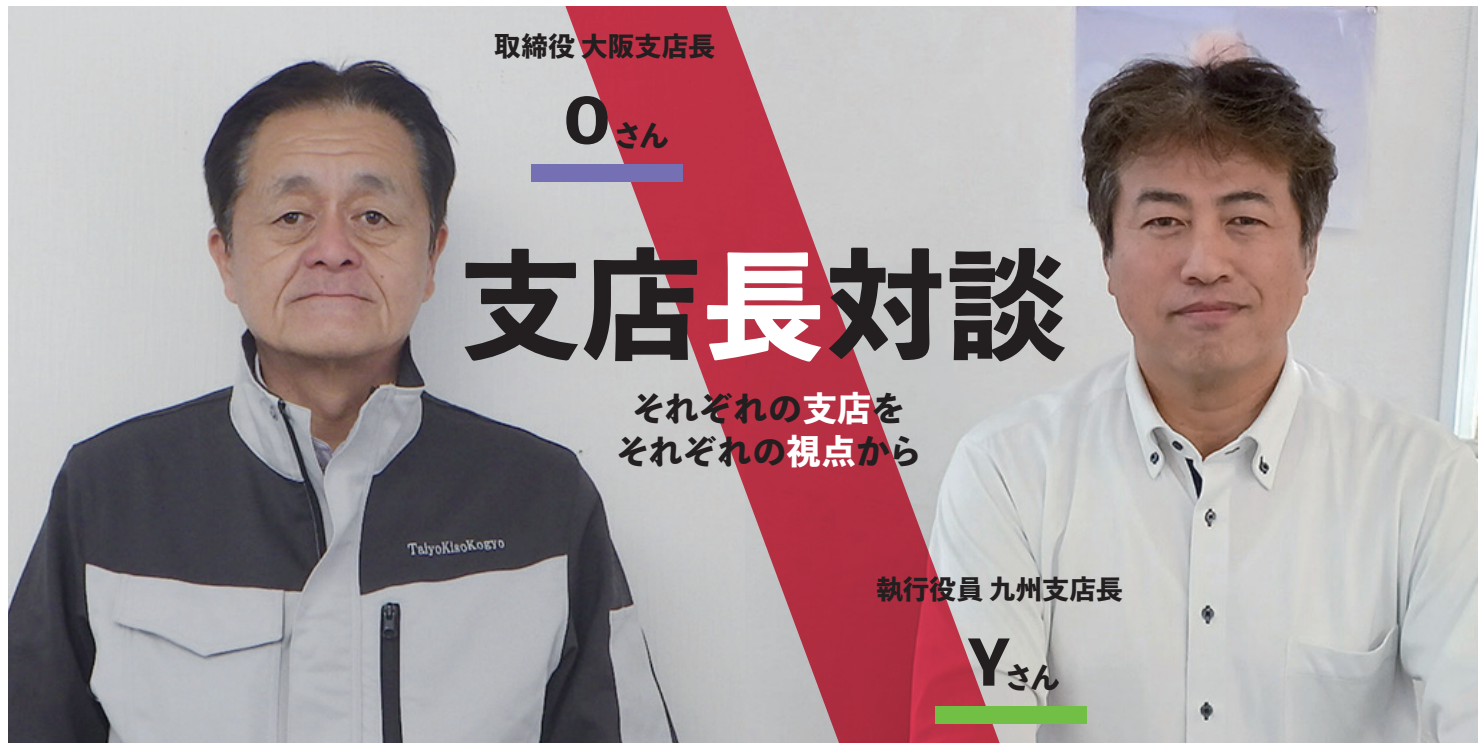


たいよう新聞

472号

5月10日発行



取締役 大阪支店長

Oさん

支店長対談

それぞれの支店を
それぞれの視点から

執行役員 九州支店長

Yさん

支店同士の関わりは少なく、たまに会議で顔を合わせるだけ……と思いきや、
実は意外に深いつながりがあったOさんとYさん。
過去の記憶にも思いを馳せつつ、それぞれの支店の自慢や課題について、率直に語っていただきました。

支店の主力・注力工種

ニーズがあれば全国各地へ

- O 大型重機土木工事に注力しており、大阪湾にある夢洲のIR建設工事にともなう「地中連続壁工」という地盤改良工事に携わることになりました。大規模な工事に携わることで、若い職員にも夢を与えられるのではないかと考えています。このほか、再生可能エネルギーの一つ、太陽光発電システムの工事も全国各地で行なっています。
- Y 私たちが注力しているのは2つの工事です。1つ目が地盤改良工事で、三井鉱山が開発したCCC工法が中心。2つ目は法面工事で、RBP、N-S.P.Cという2つの工法に注力しています。いずれの工法も九州が発祥。ご依頼があれば全国各地に赴きます。

支店独自の自慢

得意を活かし新しいことに取り組む姿勢

- O 太陽光発電に関しては本来施工のみでしたが、社員が自ら考え、材料を仕入れお客様に販売および施工をすることで受注拡大を図っています。前例のないことにも果敢に挑戦する姿勢は、自慢できるものだと思います。
- Y 西日本地区の大阪支店と九州支店は、他の支店とは違って、そういった得意なことをしている支店といえますよね。九州支店も、先程言ったように2つの工法で、コンサルタントさんと協力して設計の折込段階から仕事を作っています。また、九州支店は2025年で12年目なのですが、メンバーの平均年齢は34歳前後です。若い力を活かしたチームワークや機動力の高さにも自信があります。

現在の課題

共通の悩みは「資格取得率」

- 若い新入社員の採用が悩みの種。本社がある名古屋では老舗と言われる当社も、他の地区ではまだまだ知名度が低い印象です。
- Y 知名度を上げるためには、当社の多種多様な工種を手掛けていることを武器にお客様回りをしたり、展示会でPRをしたりしていくしかないですね。
反対に、私たちの最大の課題は、若さゆえの技術力の向上。専門知識の有無や卒業学科など文理を問わず採用しているため、知識がない状態で入社する社員もいます。

- 資格の取得率の問題もありますよね。出張が多いと、勉強時間の確保が難しいのでしょうか。
- Y そうですね。九州支店では、資格の取得を重要課題の一つとして、勉強会の開催や申し込みの支援など、できる限り手厚くサポートしています。忙しい業務の合間をぬって自発的に勉強できる社員はなかなか少ないですから。

今後の意気込み

都市づくりへの貢献と100周年存続

- 都市土木、下水管の設置、太陽光発電工事の3本柱を強化し、最終的には住みやすくより良い都市づくりに貢献したいと思っています。
- Y 私は「100期目にも存続している支店」にすることが第1の目標です。我々が若い世代へ、若い世代がまた次の世代へ、思いやノウハウを継承しながら、皆が定年を迎えられるような組織を作っていくと、面接の際に伝えたいと思います。2024年に入社した社員が定年になる頃には、100周年を迎えます。それまでは、今の幹部たちが会社を強く育てていくことが大事だと思います。



▲九州支店

対談を終えて

西日本エリアの兄弟関係

- 九州支店は、12年前まで大阪支店傘下の九州営業所でした。Yさんとはその頃から一緒に仕事をしてきた仲ですし、地元が同じ名古屋というつながりもあります。あの頃のことを思うと、Yさんの成長ぶりは本当に嬉しく思います。
- Y 大阪支店と九州支店はカバーするエリアも広く、出張も遠方になりがちな点でも似ていますし、西日本の営業所は兄弟みたいな関係ですね。若い人材不足に悩む大阪に、「行っても良いよ」という社員がもし九州支店にいたら、ぜひ送り出したいと思います。



▲大阪支店

最前線レポート

土壌浄化工事

太洋基礎工業が担当したさまざまな現場を紹介するこの企画。今回は、当社の強みともいえる超多点DP工法を活用した現場をご紹介します。慎重な作業の裏には、別の業者との情報共有の苦労や、信頼できる仲間との絆がありました。

名古屋支店 環境開発部 課長

〇さん



現場概要

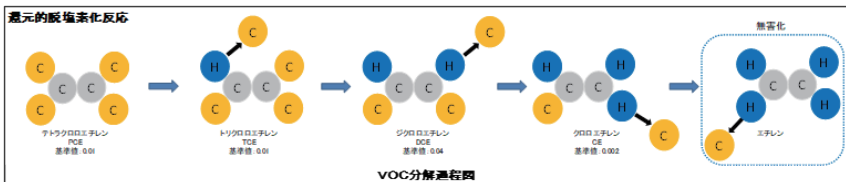
施工期間	2024年3月25日～2024年11月22日
現場体制	太洋基礎工業株式会社2名 ほか約15名
施工面積	約 3500 m ²
施工目的	土壌浄化のための薬液注入工事
施工方法	超多点DP工法



現場の特徴

広さも深さもあったため超多点DP工法で作業

今回の場所は30mくらいまで超多点DP工法を使って土壌浄化を行いました。この工法は、深さがある場合の土壌浄化を行う際に使用するもので、当社に依頼いただくメリットの一つです。重機で掘り進め、注入パイプを設置し、そこから薬液を注入します。今回は広さもあったため、その分工期も長くなっています。



超多点DP工法とは？

地盤への注入における一つの理想は、薬液などを均等に土粒子の間に染み込ませる浸透注入にあります。地質状況に見合った注入圧力、注入速度（吐出量）で注入することで、より品質の高い改良が得られます。

しかし、地質状況（締まった砂質土層など）では、低圧力・低吐出となる場合もあり、注入時間を要することになり、理想的とはいえません。新しい発想で解決したのが「超多点DP工法」（超多点ダブルパッカ工法）です。

工法の特徴

- 液状化防止対策・土壌浄化対策など、多様な目的の注入が可能
- 液状化防止対策では、溶液型、懸濁型、かり仮設材・本設（恒久）材などの注入が可能
- 土壌洗浄可対策では、バイオ（栄養剤）・フェントン（酸化剤）・還元剤（硫酸第一鉄）など、さまざまな液体の注入が可能
- 既設宅地、既設構造物周辺などの狭小な場所でも施工可能



苦労した点と乗り越え方

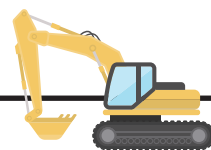
別の業者と分担し、作業場所を調整

エリアが広大なため、別の業者と分担して作業を進めることになりましたが、その中で最も苦労したのは作業場所の調整。工期に入る前に十分な打ち合わせを行ってはいなかったものの、実際に工事が進む中で予定がずれることが頻繁に発生。そのため、情報共有を密に行い、日々細かな調整を重ねました。

現場でのエピソード

同業者との交流ができた

施工期間中、現場を分担していた別の業者とは良好なやり取りができ、夜にお酒を飲みに行くといった交流もありました。また、今回の現場はほとんど馴染みのある方々ばかりだったため、信頼関係ができており、スムーズに作業ができました。工期に応じて作業していただき、本当に感謝しています。



声援

築き上げてきた絆こそが私の財産

神守研究開発センターでの勤務を続けて約30年。時代に合わせて技術も進化しており、特にこの10～15年の間で大型の重機を使用した工法が増えてきました。それに伴い、現場での施工支援に加えて機材のレクチャーを行う場面も増加しています。指導するためには、私たちも新しい技術や機材に関して勉強を続けていかないとはいけません。そこで協力していただいているのが、各メーカーの方々です。長いお付き合いを経て親しくなった社外の方も多く、各メーカーの皆さんから直接教えていただくことで知識を深めています。これまで培ってきた人脈は、私たちにとって大きな財産であると改めて実感しています。

何より大切なのは「健康であること」

7～8年ほど前に体調を崩し、周りに迷惑をかけてしまった時期がありました。体が元気でないといえることが限られてしまい、仕事にも影響を与えます。50歳を過ぎたこともあり、そこから体を気遣うようになりました。取り組んだのはタバコをやめて、アルコールを減らすこと。ときにはお酒の席で飲む場合がありますが、なるべく量を減らすことを心がけています。その結果、薬を飲まなくても体調を維持できるようになりました。当社も「健康経営優良法人」として認定されました。今後も社員全員で体調管理に取り組んでいければと思っています。



神守研究開発センター
管理部 部長

Fさん

役立ちコラム



ハラスメント加害者にならないために

自分が加害者になるはずはない……と想着いても、実は誰でも起こりうる身近な問題、それが「ハラスメント」。今回は、職場で起こりやすいハラスメント実例をご紹介します！安心できる職場環境のために、そして自分自身を守るためにぜひご一読を！

注意！ ハラスメントになりかねない言動例

① パワハラ

- ・「君ならできる」と言って、能力や実力以上のノルマを課す
- ・腹が立ったときに近くのゴミ箱を蹴飛ばす
- ・「休日でも上司からの電話は出るべきだ」と叱責する
- ・久しぶりに配属された新人に何を任せたら良いかわからず、数日間放置する

② セクハラ

- ・飲み会で隣の席に座ることを強要する
- ・「結婚しないの？」「子どもはまだ？」としつこく聞く
- ・「男が育休を取るなんておかしい」と公的に認められている権利を否定する
- ・「この仕事は女性には無理」と性別を理由に排除する



Point

親しい間柄で「冗談」のつもりだったとしても、相手の尊厳を傷つける言動は慎みましょう。

Point

異性間に限らず同性同士でも起こりうる問題です。